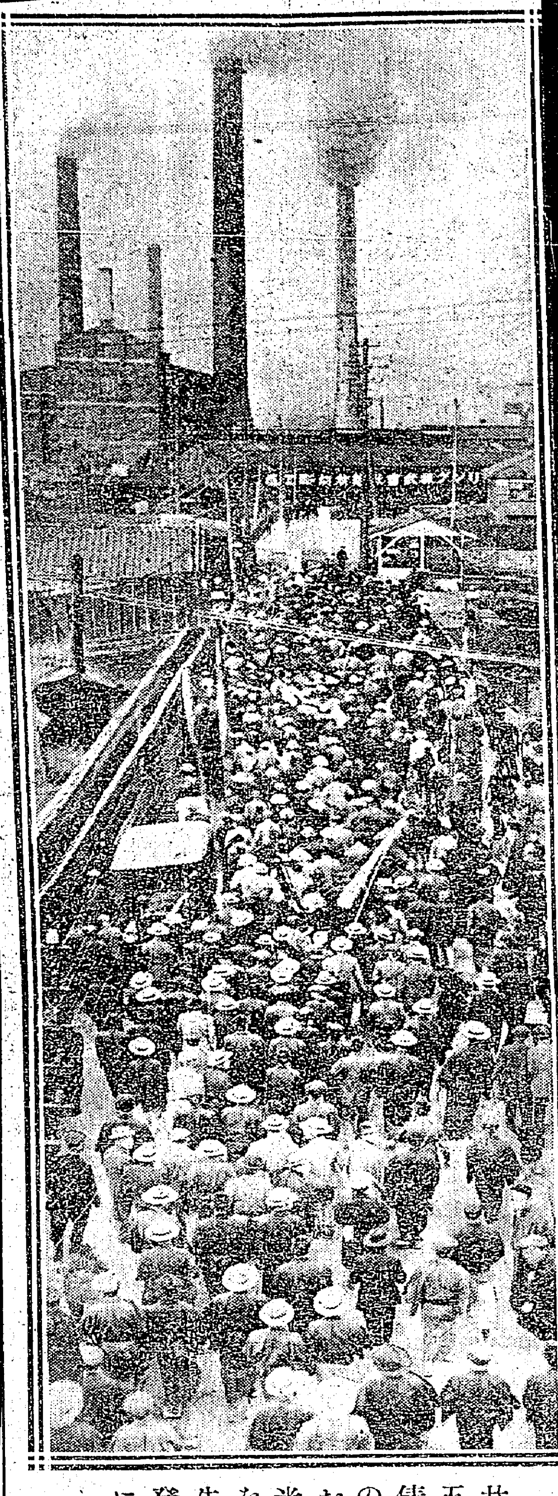
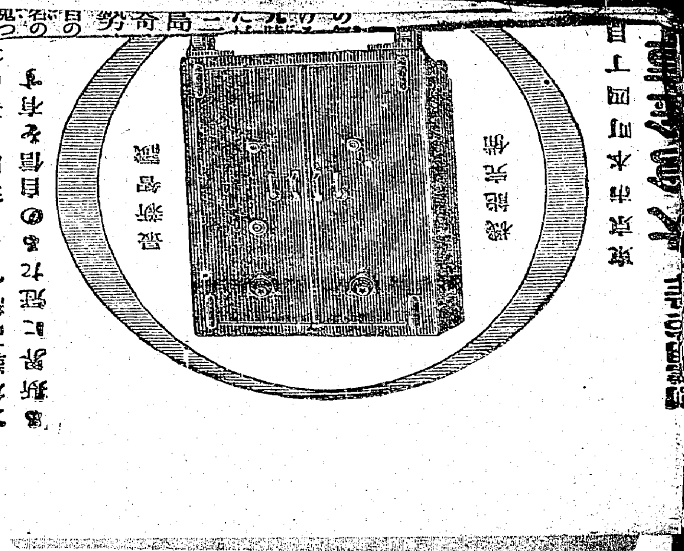


廿五俵のお米を先登に
安治川發電所へ向ふ職工連（十三日午後五時半）



警官隊は端建藏橋で此一團を喰止めようと必死に警戒線を張りコヽで双方睨み合ひの姿となつたが中には警戒を潜つて大電本社並に安治川、春日出兩發電所にも向つた樣子があり警官隊は各方面の警戒に努めて居る（十五日午前零時廿分大阪發）

「これがクライマックス 絶頂だ」
上京中の田中警察部長語る
＝今朝急遽歸阪せん＝

右に付上京中の田中大阪府警察部長は語る「この問題のため警察部

大八車に廿五俵のお米を積んで示威
汽車會社の職工に貰って 勢込む大電の罷業職工

十三日午後四時半大阪西區春日出小學校横手の廣場へ蝟集した汽車會社の職工約五百が廿五俵の白米を中心として凄い文句を並べて居る所へ大電電業員組合員友愛會員など是亦五百名が馳せ加はる汽車側から電業側に

「資本家と戰つて居る電業組合が最後の勝利を得るために我等はその兵糧として白米廿五俵と金一封とを寄贈する我等は力のあらん限り今後努力において又物質において電業側に後援したい、どうか屈する所なく戰つて貰ひたい――と挨拶する

是に對して電業員側は

熱烈なる諸君の御後援を感謝する我等は最後の一人となる迄奮鬪し初志の貫徹に努めます――と謝辭を述べ廿五俵と一封との授受は無事に濟んだ

斯て隊伍を整へた一同は二臺の大八車に廿五俵を分乘し『第一回寄附汽車會社職工有志』と白木綿に墨書した長旗を先頭に何々寄附何々團、電友會旗等を押立てヽ示威行列に移つた、列の先頭が春日出發電所の正門前に來ると私服制服の警官が約二百名大事あらばと警戒した、悲壯な勞働歌に次でワッショ〜の掛聲が厳めしい發電所の板塀を貫いて作業中の復職々工に聞けよと許り高唱された、それから安治川の西岸に沿うて安治川發電所前へ差蒐つた時選拔用の高架鐵橋の上に突つ立つた宮田福島署長と森隆關課長の姿を見「何たる不敬な僕等を見下して居るとは怪しからぬ恩知らず奴――」と怒號し此處でも春日出同樣にワッショ〜を繰り返して安治川三丁目の交番所前を西北に折れて二十五俵を西野田對込町の事務所に運び入れ此處で數名の十分間演説があつて六時廿分無事解散し幹部は北傳法町法泉寺の演説會に臨んだ、が兩發電所の中は梶棒を携へた國粹會員と警官隊とで埋まつて居た

雇傭契約を除いた 狹義の交渉權に
略一致した大電と警察側の意見

警察部の手で仲裁の再燃しさうな大電問題は其後田中部長と加々美特高課長とから大電及び友愛會側の意見をそれとなく徴した所例の提出條件の第一條の團體交渉權につき雇傭契約を除き狹義の交渉權といふ事に略兩者の意見一致して居るもの、コレは雙方公の性質を帶びて居らず電友會問題を離れた私的問題として取扱はれて居り殊に大電側は萬一兩者の意見が一致するとも大電が友愛會の言を容認したのではなく参考に聽いたに止まると力説頗る努めて居たが私的の意見交換が次第に形を變へて公的のものとなるのではないかと思はれる